



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

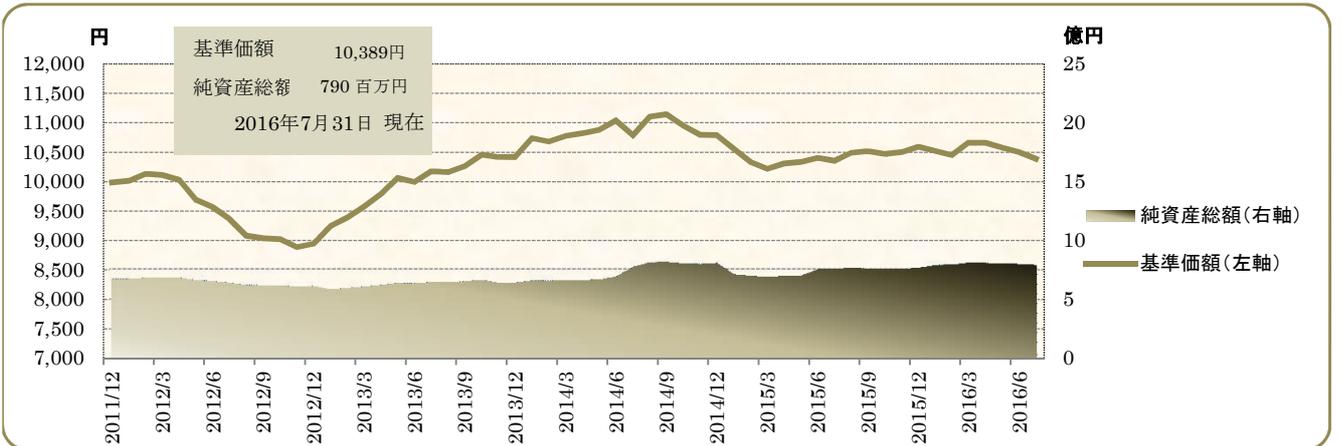
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2016年7月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

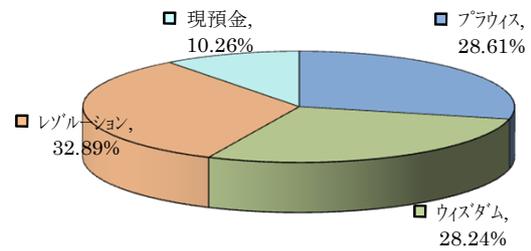
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%						-1.93%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2016年7月31日	
基準価額:	10,389円	対前月比 -117円
純資産総額:	790百万円	対前月比 -5.9百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-2.54%
基準価額騰落率	6ヶ月	-1.28%
設定来	ファンド	3.89%
基準価額騰落率	TOPIX	82.81%
	日経平均	97.21%

投資対象ファンドへの資産配分 (2016年7月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%						-3.66%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%						-5.05%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%						8.67%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

7月の株式相場は、日経平均で6.38%上昇の16,569.27円、TOPIXで6.17%上昇の1,322.74ptとなりました。政府・日銀への政策期待や米国株高を受けて上昇しました。

上旬は、欧州の銀行不良債権問題や英不動産ファンドの解約停止などを嫌気し欧州株が下落したことや、1ドル101円台まで円高が進んだことを受け、外需株や金融株を中心に下落しました。

中旬は、米雇用統計が市場予想を上回り米株が上昇したこと、米利上げ観測が再浮上し1ドル107円台へ円安が進んだことなどから、外需株を中心に大幅に上昇しました。参院選で与党が勝利し、大規模な経済対策への期待感が高まったことも株価上昇を支えました。

下旬は、一進一退の動きとなりました。22日に日銀の黒田総裁がヘリコプターマネーに否定的な見方をしたと伝わると、円安の流れが止まり外需株を中心に下落しました。29日の日銀金融政策会合でETFの買い入れ増額とマイナス金利の現状維持が決まると、金融株を中心に上昇しました。

需給面では、海外投資家が特に先物市場で大幅な買い越しとなった一方、個人投資家が売り越しとなりました。

セクター別騰落率では、保険業、証券業、その他製品、輸送用機器、ガラス土石が上位となり、石油・石炭、空運業、水産・農林業、小売業、電力・ガス業が下位となりました。日銀の追加緩和を好感して金融業種が大幅に上昇する一方で、ディフェンシブ業種、内需業種がアンダーパフォームしました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.4兆円でした。19日には、ポケモンGOアプリの配信が話題となった任天堂の売買代金が7,000億円を超え、個別銘柄の1日の売買代金の過去最高を更新する出来事がありました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが2.66%上昇と、TOPIXに比べて小幅な上昇に留まりました。東証マザーズ指数は8.82%下落と、大幅な逆行安となりました。

ファクター面では、低PERや低PBRなどのバリュエーション指標や高ベータなどが好調でした。一方で、モメンタムファクターやROEのマイナスが目立ちました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

＜ファンド運用状況＞

7月の運用成績はJPYクラスで-0.40%となりました。6月の反動から陸運・食品セクターを中心に割安・割高の修正が入ったことで、7月前半のパフォーマンスが堅調に推移しました。しかし、7月中旬以降はゲーム関連の銘柄が急騰したことや、ロングサイドの銘柄が相対的にアンダーパフォームしたことから、月間のパフォーマンスがマイナスとなりました。

セクター別の損益では、電力・ガス、機械、精密セクターでマイナスとなり、REIT、食品、小売りセクターでプラスとなりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

8月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。円高傾向が再び強まっていることから、外需産業を中心に業績の不透明感がありますが、日銀がETF購入規模を6兆円に増額したことによる株価の下支え効果もあり、大幅な下落も想定しづらいと考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

＜ファンド運用状況＞

7月の運用成績はJPY-Fクラスで-0.63%でした。今月は先月から転じてリバーサル、高ベータ相場となる中、割安銘柄のリバウンドはプラス収益に寄与したものの、鉄鋼、小売、サービス、公益セクター内の個別銘柄選択がマイナス寄与となりマイナス収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションでスズキ(7269)、アルプス電機(6770)、ショートポジションで出光興産(5019)、小野薬品工業(4528)がプラス収益に寄与しました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

8月の株式市場は横ばいを予想します。政府による経済対策の発表や日銀による小規模な追加金融緩和の決定で材料出尽くしから一旦は円高、株安で反応するものの、グローバルな経済のファンダメンタルズは悲観する状況になく月後半には落ち着きを取り戻すと考えられます。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

＜ファンド運用状況＞

7月の小型株市場は、月初から売り優勢となり小型株全体が軟弱に推移しました。投資家は放置された割安銘柄に目を向けることもなく、むしろ先月からのグロース銘柄の売りを継続しました。一方、大型株市場はバリュエーションが買われ、先月から転じてバリュエーション優位の展開となりました。また、株式市場全体は先月から上昇しましたが、小型株市場の反発上昇は限定的であり、TOPIXに割負けしました。

先月来よりグロースエクスポージャーを引き下げ、ある程度ロングの利益確定も進めましたが、ウェイトの大きい内需グロース銘柄が月を通して悪かったことが、マイナスパフォーマンスの要因となりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

8月は、これまでに売られたグロース銘柄も一部決算発表を受けて反発する可能性があります。小型株市場全体をけん引する程のトレンドになるとは考えづらいので、全体として抑制的なポートフォリオとします。

売買高も少なくなる中で、小型株の放置銘柄に大きな変化は見込まれないため、ある程度流動性のある割安内需の組入を行います。また、第一四半期決算発表を受けた短期的な株価変動にもチャンスがあると考えます。

個別性のある小型株のロング部分で引き続きパフォーマンスの確保を狙い、新たな期待銘柄への入替を進めていきます。業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入と、成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご注意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。